IPPF TICAD NAIROBI 2013 From the People of Japan

カチッ。

まだ明けきらぬ早朝に、そして、夜の帳が降りるころ—。
照明のスイッチをつける。
私たちが何げなく日々繰り返すその行為が、
アフリカの村々で今、女性たちの生き方を変えつつあります。
きっかけは「官・民・市民社会」連携による、新たな試みでした。

女性が輝く未来のために：

心が目覚める「変革のスイッチ」で女性の地位と健康を向上させる

ガーナ共和国北部・西マンプルシ地区。
電気のない村で暮らすアミナ・セイドゥさんに
変化が訪れたのは2014年。初めて「自分の灯」を
手にしました。国際家族計画連盟（IPPF）が
村の女性に配布したソーラーランタンです。

初めてスイッチをつけたとき、
なんだかとてもわくわくしました

2013年、この西マンプルシ地区で、日本政府の支援による「IPPF・日本 HIV/リプロダクティブヘルス信託基金：JTF[*1]」を利用した母性保護プロジェクトが実施されており、その一環で、IPPF ガーナ（PPAG）がマイクロクレジットによる女性たちの収入創出活動支援を始めるところでした。ガーナの中でもとりわけ多くの女性が妊娠・出産で命を脅かされていることには、女性の地位の低さが強く関係していたからです。

村には電気がありませんが、貧しさゆえ一家に一台あれば良い方だという電池式電灯も、利用できるのは男性のみ。一家が男性の母屋と妻と子供の離れに分かれて暮らしているので、妻の住まいには電灯がありません。例えあっても、電池が切れれば、新しい電池を購入できるかは家長である夫の判断です。夫ひとりに何人もの妻と子どもがいるのが普通で、妻がセックスを拒めば夫は扶養しなくてよいと考える男性も多い地域にあって、女性たちは、妊娠・出産に伴う危険にさらされながらも、全ての選択を夫にゆだね、従っていました。

○ ガーナの母子保健指標 ○

指標	北部地域	全国平均
合計特殊出生率（調整、2010）*	6.01（国内最高）	4.57
妊産婦死亡率（10万生出生あたり、2010）*	531	485
医療従事者の立ち合い下での出産割合（%、2014）**	36.4（国内最低）	73.7
15–19歳の母親の場合の乳幼児死亡率（5歳未満、2010）*	226（国内最高）	193
読み書きができない女性の割合（11歳以上、%、2010）*	69.6（国内最高）	31.5

2013年5月に開催された第5回アフリカ開発会議（TICADV）では、パナソニック株式会社が途上国向けに開発したソーラーランタンが脚光を浴びていました。さらに同年9月、日本政府は「女性が輝く社会」づくりを国内外の重要政策の柱に据え、アフリカの開発、特に母子保健分野への貢献を強化することを発表しました。[*2] IPPFは、この製品を西マンプルシ地区で実施中の JTF事業で活用すればシナジー効果が期待できると考えました。JTFを財源に320個購入し、診療所で活用するかたわら、PPAGから収入創出活動についての研修を受けた300人の女性に、新たなビジネスを始める元手とともに手渡しました。

指標資料：*Ghana Statistical Service. 2010 Population and Housing Census: National Analytical Report. Accra, Ghana: GSS; 2013 **Ghana Statistical Service, Ghana Health Service and ICF International. Ghana Demographic and Health Survey 2014: key indicators. Accra, Ghana: GSS GHS and ICF International; 2015.

アミナさんは、ピーナッツ栽培を始めました。束ねた草を燃やしては手元・足下を照らしていた頃と違い、早朝の畑でへびにかまれる心配も減り、晩ご飯の支度のために早々に作業を切り上げる必要もなくなりました。子どもたちも、夜、料理や仕事をする母の傍らで勉強をしたり、いろいろ話をするようになりました。アミナさんはさらに、ソーラーランタンの充電機能を使って携帯電話の充電サービスも始めました。一日に隣人から4台請け負えば、収入は8セディ（約2USドル）。「子どもたちに栄養価が高いものを食べさせられるようになりました」。増えた時間、機会、収入をどう活かすのか、自ら選び、行動する。初めてスイッチを入れた時のわくわくした気持ちが、自信と喜びという形に育ちつつあります。

ソーラーランタンの価格は、地方の農家の平均年収の約6分の1[*3]にあたり、アミナさんや村の女性たちにとっては高額です。しかし収入創出活動と同時に支援を受けたことで、やりくりをして少しずつ蓄えては、PPAGにマイクロクレジットを返済することができます。既に211人が完済しました（2016年7月現在）。

母子保健向上プログラムとソーラーランタン支援のシナジー効果

○ ガーナにおける「官・民・市民社会」連携事業 2013年4月～2015年11月 ○

政府
（日本政府）

「女性が輝く社会」実現は国内外の重要政策の柱であり優先課題である旨安倍首相が国連総会（2013年9月）で表明。女性の保健医療分野の取組強化はその重点施策。

- ○ ジェンダー平等に関するSDGs達成へのコミットをG7で確認
  - – 家族計画サービスを含む女性および女児のための健康サービスの提供を優先
  - – 保健や生殖に関して十分な情報を得たうえで意思決定できる権利強化の取り組みを支援

「女性の能力開花のためのG7行動指針」
2016 G7伊勢志摩サミット

民間企業
（パナソニック株式会社） Panasonic

ソーラーランタンは、母子保健・教育分野で効果があると実感。IPPFは重要なビジネスパートナー。

- ○ 母子保健（病院）や教育（学校）は、コミュニティの中心。自社製品が役立てば、地域全体にブランドへの信頼が広がる
- ○ 世界の母子保健分野でIPPFは加盟協会を通じた草の根で活躍し高い信頼を得ている。情報収集や販売ルートがない我々にとって連携は大きなメリット
- ○ 昨今の価格競争に対応しながら現地ニーズにかなう商品を開発し企業としての成長・収益と社会貢献を両立させる道を確立したい

国際渉外部　堀田隆之氏

市民社会
（国際家族計画連盟：IPPF） IPPF

たとえ規模は小さくとも適確な活動であれば、女性とその家族の暮らしに大きな違いを生み出すことができる。

- ○ 日本の重点政策である「女性が輝く社会づくり」が西マンプルシ地区のプロジェクトで実践されている
- ○ IPPFは今後も日本のODAと企業の力や技術をつなぎ、地域に根差した活動で、支援の効果を促進させていく
- ○ 収入創出活動支援対象全員にはランタンの配布ができていない。企業の利益につながる大規模発注はできず、購入した製品の輸送費をどうやって捻出するかなどの課題はあるが持続可能な連携の仕組みをなんとか構築していきたい

IPPF本部　谷口百合

夜、村の広場にソーラーランタンを持ち寄って灯すと、人が集まり、交流が始まります。隔週で開かれるようになったこの集まり[*4]では、PPAGが育成した「地域支援スタッフ（Community Based Services（CBS））」が活躍。男性たちにもはたらきかけ、女性たちに芽生えた力への理解と後押しの環境づくりをします。

CBSが情報を提供しながら、いつ何人子どもを持つか・持たないか、避妊具の使用がなぜ女性の命や健康を守ることにつながるのか、皆で意見を交わします。回を重ねるにつれ「夫婦の関係が良くなった」と感じる女性が増えてきました。

6人の子を持つアミナさんも「夫も私も知らなかったから、次々に出産してきましたが、新しい情報を得たので、夫とも気軽に話せるようになりました。この先はちゃんと計画したい。」と考えています。

PPAGの北部地域プログラムコーディネーター、
ピーター・ダクラーは、確かな手応えを感じています。
「地方では、多くの女性や少女たちが、貧しさゆえに医療
サービスを利用できません。出産時に必要な清潔なシーツを
買うことすらできず、感染症に罹ったり、危険な中絶で後遺症に
苦しみ、さらに困窮するといった悪循環にありました。
今回のプロジェクトで、支援の効果は確実にあがり、
女性にも地域全体にも、好い循環が生まれつつあります。」

世界で極度の貧困状態で暮らす人たちの3分の2は女性です[*5]。
女性たちが貧困から抜け出すことができれば、消費の力や
活力が増し、社会全体が浮上できます。しかし、困窮し、脆弱な
立場にある人たちがその一歩を踏み出すには、そのきっかけが
必要です。たとえ小さな支援でも、本当に必要とする人たちに
確実に届けば、大きな効果をもたらす可能性がある。
西マンプルシでの試みは、私たちにそう教えてくれています。

カチッ。

アフリカの村で、きょうも「変革のスイッチ」が入ります。
照らし出されるのは、**女性たちの輝き**。
自らの力、そして今日と明日に
希望を見出だした笑顔です。
日本の支援と技術が、IPPFによる
村の女性たちに寄り添った活動を
しっかりと支えています。

【注 / 参考】
*1「IPPF・日本 HIV / リプロダクティブヘルス信託基金 (IPPF Japan Trust Fund for HIV/Reproductive Health:JTF)」日本政府全額拠出で 2000年、IPPF 内に設置。IPPFが管理運営し、HIV とリプロダクティブヘルスの統合サービスを普及させるための様々な事業を実施。
*2 SDGs 達成にむけ日本政府はジェンダー平等と女性・少女のエンパワーメント実現を主導すると国際公約：http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html
*3「Food Expenditures and Income in Rural Households in the Northern Region of Ghana (2012 AAEA)」
*4「パナソニック・ソーラー・ナイト・ディスカッション」
*5「Gender Equality Strategy 20082011(UNDP)」より

IPPF とは？

国際家族計画連盟 (The International Planned Parenthood Federation – IPPF) は、人々が自分自身で意思決定できるようにセクシュアル・リプロダクティブヘルスサービスを提供します。私たちはすべての人々がこれらを選択する権利を持てるように活動しています。メンバーやボランティアを通じて現地と密接にかかわり、ネットワークを通じてグローバルにつながります。
私たちは、どこでも誰でも、サービスを必要とする人がいる限り、ニーズに応えます。

2016年 8月発行

IPPF
4 Newhams Row
London SE1 3UZ
United Kingdom

電話：+44 20 7939 8200 ／ファックス：+44 20 7939 8300
電子メール：info@ippf.org ／ホームページ：www.ippf.org

英国慈善団体登録番号 229476

Design by the Pleiades